

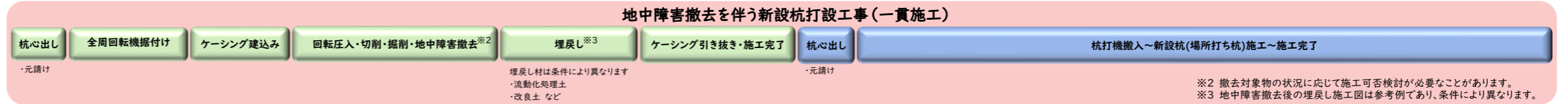
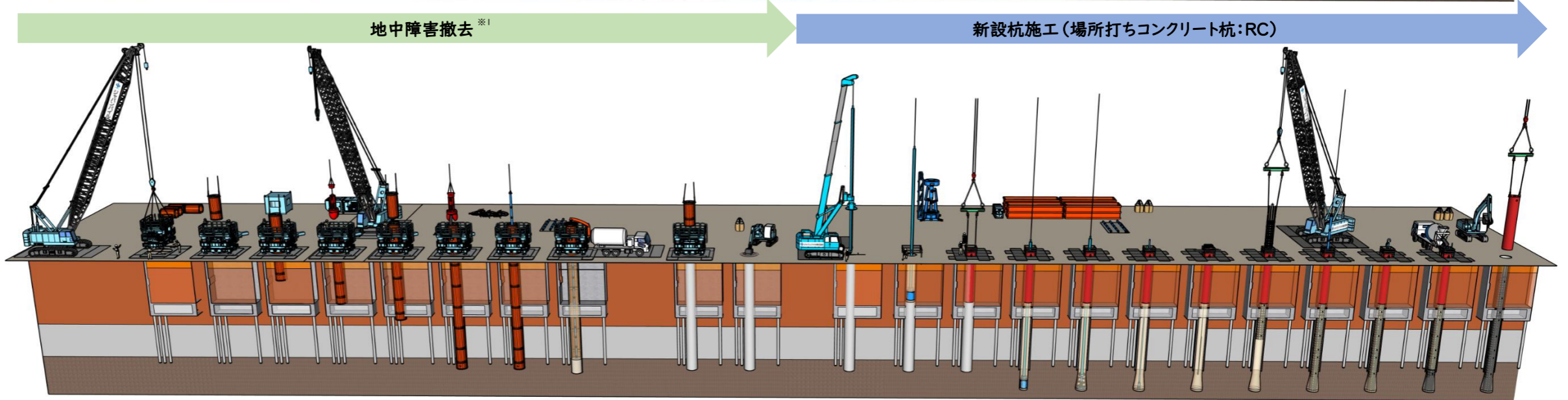
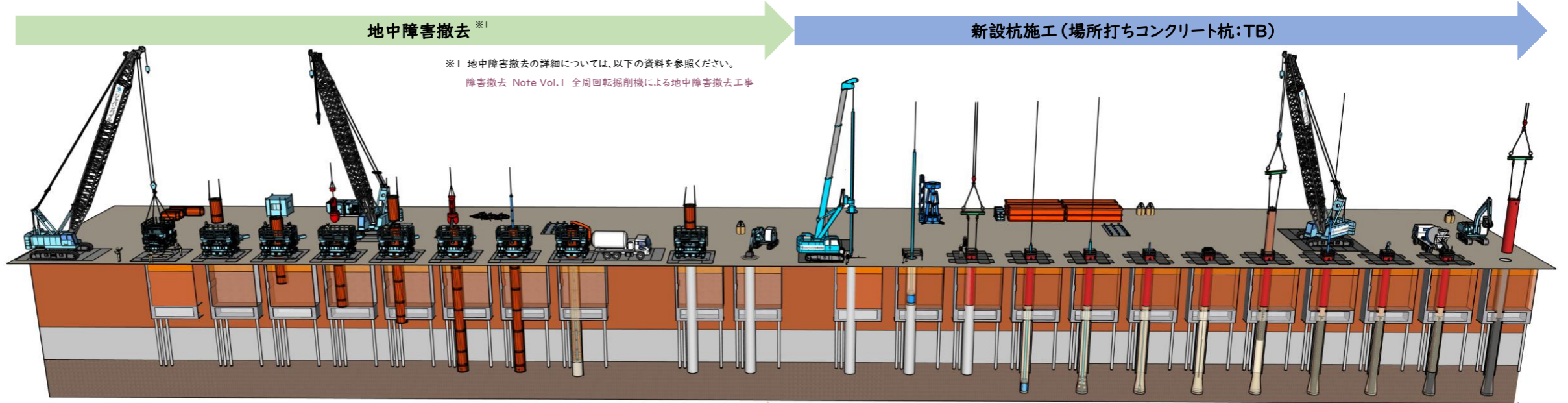
概要

新設杭芯にて新設杭掘削径よりも同径以上のケーシングチューブを全周回転掘削機にて回転圧入しながら地中障害物を切削します。ケーシングを残置することで孔壁を保ちながら、ケーシング内をハンマグラブにて掘削・排土・撤去します。撤去後はケーシングで孔壁を保ちながら、流動化処理土または改良土などにより埋戻しを行います。養生後に杭打機を搬入し、各種場所打ち杭工法で新設杭の施工を行います。(一貫施工)

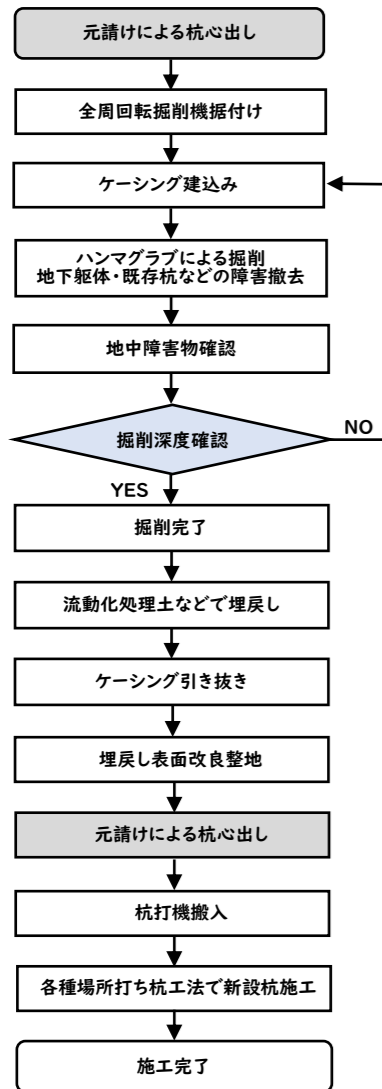
新設杭施工時に地中障害撤去の影響で孔壁の崩壊や孔曲がりが生じる可能性があるため、地中障害の状況、既存杭の種類と新設杭の組み合わせや干渉具合に応じて、既存杭撤去の方法や埋戻し方法、杭長の設定を適切に行う必要があります。

施工概要図

※施工機械が大型のため、十分な施工スペースの確保が必要です。(物件ごとにご相談ください。)

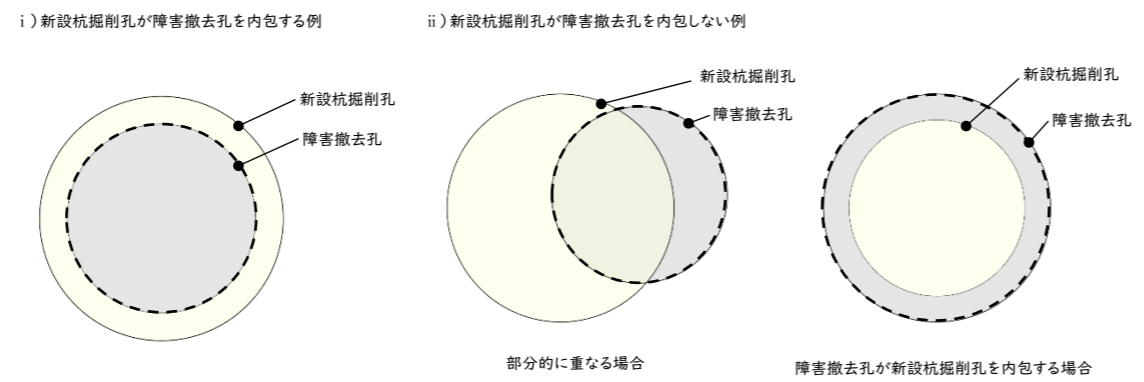


施工フロー

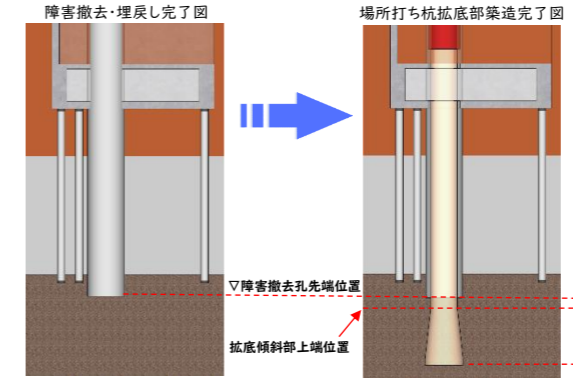


設計に関する留意事項

- ・新設杭掘削孔が障害撤去孔を内包しない場合は、障害撤去ケーシング範囲の周面摩擦力の評価については設計者と協議の上、決定します。
- ・障害撤去孔の先端付近の地盤は乱されるため、新設杭の拡底傾斜部上端+αが障害撤去孔先端深度よりも深く設定する必要があります。



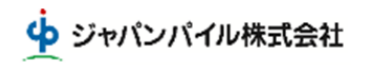
iii) 障害撤去孔先端と拡底傾斜部上端位置の関係



※2 撤去対象物の状況に応じて施工可否検討が必要ことがあります。  
 ※3 地中障害撤去後の埋戻し施工図は参考例であり、条件により異なります。

お問合せ先

詳細は弊社までお問合せください。



※本資料の内容は予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。